



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 10月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.176 2021.10

紹介内容 (9/1~9/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 美里農改：子実用とうもろこしの生産拡大に向けた現地試験打合せを行いました
 - 仙台農改：株式会社イグナルファーム大郷で栽培振り返り検討会が開催されました
 - 亘理農改：農業経営相談所と連携し、花き農家の経営改善に向けた支援を行いました
 - 登米農改：水稲種子生産ほ場の第2期ほ場審査を行いました
 - 美里農改：美里町に新たな農事組合法人が設立されました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 美里農改：南郷高校2年生を対象とした「みやぎ農業未来塾」を開催しました
 - 栗原農改：法人設立を目指して集落説明会を開催
 - 登米農改：登米市農業士会「経営向上研修会」を開催しました
 - 栗原農改：有賀営農組合 法人化に向けて一歩踏み出す

- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 仙台農改：赤色LED照射で9月出しトルコギキョウの開花を抑制
 - 石巻農改：グロワー技術交流会（パプリカ編）に参加しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 美里農改：「美里町北浦梨フェア2021」開催中
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなりんご部会第2回現地検討会が開催されました
 - 亘理農改：抑制きゅうり現地検討会が開催されました
 - 石巻農改：ばれいしょ生産拡大推進研修会を開催しました
 - 亘理農改：いちごの花芽検鏡を行っています！
 - 登米農改：JAみやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催されました
 - 大崎農改：令和3年度ばれいしょ生産拡大推進研修会が開催されました
 - 登米農改：登米産いちごの早期安定出荷に向けて花芽の検鏡を行いました
 - 亘理農改：秋まき直播たまねぎの栽培実証が行われました
 - 亘理農改：亘理町逢隈の抑制トマト現地検討会が行われました！
 - 亘理農改：亘理地域にて「シャインマスカット販売会」を開催しました！
 - 気仙沼農改：若松の初出荷に向けて順調に生育中！

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 亘理農改：大豆種子生産ほ場の第1期ほ場審査を行いました
 - 石巻農改：鳴瀬地区水稲乾田直播・大豆現地検討会が開催されました
 - 大崎農改：「だて正夢」及び「金のいぶき」収穫前研修会を開催しました
 - 大崎農改：農業研究組織「若牛会」の取組を支援しています
 - 大河原農改：適期収穫に向けた「だて正夢」地域栽培塾を開催しました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援 9
- 気仙沼農改：第3回宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会を開催しました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 9
- 亘理農改：亘理地域にて加工勉強会を開催しました
- 仙台農改：ブロッコリー栽培講習会を開催しました

- ② 大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援 10
- 石巻農改：株式会社宮城リスタ大川で水稻刈り取りに向けた研修会を開催しました
- 仙台農改：JA新みやぎ大郷カントリーエレベーターの落成式が行われました

4. その他

- ① 令和3年度第1回普及活動検討会について 11
- 亘理農業改良普及センター（9月3日掲載）
- 気仙沼農業改良普及センター（9月16日掲載）
- 大河原農業改良普及センター（9月21日掲載）
- 仙台農業改良普及センター（9月27日掲載）
- 石巻農業改良普及センター（9月28日掲載）
- 登米農業改良普及センター（9月29日掲載）

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○子実用とうもろこしの生産拡大に向けた現地試験打合せを行いました

令和3年9月2日

美里農業改良普及センター



涌谷町では、省力化にもつながる子実用とうもろこしを、今後の水田転作作物の選択肢の一つとして捉えており、取組みを推進する意向を持っていました。

普及センターから畜産農家に子実用とうもろこし生産について紹介したところ、興味を持った生産者2戸（個人と法人）から、試作してみたい旨の意向がありました。

また、畜産試験場において、現地栽培試験に取り組む意向のある経営体を探していたことからマッチングし、8月10日に涌谷営農センターにおいて、子実用とうもろこしの現地試験の打合せを行いました。

その結果、令和4年度は、栽培試験を進めることになり、最大で5haのほ場を確保して実施することとしました。

今後は、東松島市の先行事例視察、試験打合せを重ねるとともに、将来的な作付け拡大に向けて、販売先の確保を進めていきます。

○株式会社イグナルファーム大郷で栽培振り返り検討会が開催されました

令和3年9月8日

仙台農業改良普及センター



8月31日、株式会社イグナルファーム大郷で栽培振り返り検討会が開催されました。検討会には、当普及センターや農業・園芸総合研究所の職員が出席し、今作前半のミニトマトの栽培管理や管理作業の進捗等について、気象データやウィークリーレポート、

AGRIOS（生産性管理アプリ）のデータをもとに、社員と検討・意見交換を実施しました。

今作は、LAI（葉面積指数）に基づく葉数の管理や、自動選果機の導入に伴う人員配置の改善などを行ったことで、前作よりも樹勢が安定したほか、計画的な栽培管理につながり、収量が前年同期と比べ増加するなどの効果が見られています。また、各作業担当者から、前半でうまくいった点、うまくいかなかった点について報告があり、併せて積極的に改善策の提案や意見交換等も行われるなど、社員のモチベーションが上がっている様子が見受けられました。

当法人では、継続的に振り返りと改善を実施していくこととしており、今後もさらなる生産性の向上が期待されます。

○農業経営相談所と連携し、花き農家の経営改善に向けた支援を行いました

令和3年9月13日

亘理農業改良普及センター



亘理農業改良普及センターでは、農業経営相談所と連携し、専門家を活用した花き生産者の経営改善に向けた支援を昨年度から継続して行っています。

HS経営コンサルティング株式会社の代表取締役で中小企業診断士である本田茂先生を助言者として招き、前回の経営診断に続いて、今回は資金繰り表の作成に取り組みました。

コロナウイルス感染症の影響により花き類の市況が不安定であり、先の見通しが立てづらい状況にあります。そうした中、精度を意識し過ぎずに、管理しやすい項目で、早く資金繰り表を作成すると、数字が見えて適確な行動に繋がること、実績を基にした見直しを継続することが重要であること等、本田先生から説明を受け、月別に数値を確認しながら表の作成を進めました。

作業終了後、対象農家から今後の抱負について話があり、これまで以上に経営に前向きな姿勢を感じ取ることができました。

普及センターでは、農業経営相談所等との連携を図りながら、管内の農業者の経営発展に向けた支援を行っていきます。

○水稲種子生産ほ場の第2期ほ場審査を行いました

令和3年9月15日
登米農業改良普及センター

登米管内では、J Aみやぎ登米水稲種子採種組合が、約66haの採種ほ場で水稲の種子を生産しています。

普及センターでは「主要農作物種子条例」に基づき、「ほ場審査」と「生産物審査」を行っており、9月1日に「第2期ほ場審査」を行いました。

今回の審査では、種子への異品種混入や雑草種子の混入を防止するための最終チェックを行った結果、全ほ場「合格」となりました。

採種ほ場では、9月中旬から順次収穫が始まり、種子センターで乾燥・調製作業が行われます。

普及センターでは、今後収穫された種子の「生産物審査」を行い、優良種子の安定供給が図られるよう支援してまいります。

○美里町に新たな農事組合法人が設立されました

令和3年9月30日
美里農業改良普及センター



このたび、美里町荻埴（おぎぞね）に新たな農事組合法人「荻埴ノースファーム」が設立されました。

荻埴地区の集落営農組織「荻埴北生産組合」は、農業の後継者問題を抱える中、地域の農地を守っていくため法人化を目指すこととし、令和3年2月に発起人会を設立しました。発起人の方々は、法人化に向けた多くの課題を解決するため、丁寧に話し合いを重ね、合意形成に繋げてきました。話し合いがスムーズに進むよう、町・J A・普及センターが連携し、助言や専門家派遣等の支援を行いました。

8月22日には法人設立総会が開催され、新たなスタートを切りました。来年度から組合員6人が約24haの農地で水稲と大豆の生産を始めます。将来にわたり、地域の農業を担っていく法人として、今後さらなる発展が期待されます。

②新たな担い手の確保・育成

○南郷高校2年生を対象とした「みやぎ農業未来塾」を開催しました

令和3年9月1日
美里農業改良普及センター



美里農業改良普及センターでは、農業高校の生徒が在学中に地域農業への理解を深めることで進路選択の一助となるよう、南郷高校担当教諭と相談・企画調整し、2年生を対象とした「みやぎ農業未来塾」として、管内の特徴的な経営を行う2つの経営体を視察しました。

1カ所目は、大崎市鹿島台地区でトマトときく、ほうれんそう、水稲の複合経営を行う有限会社マルセンファームを視察しました。千葉卓也代表取締役から、収益性を上げるため、かん水を制限し糖度の高いトマトを生産することで差別化を図っていると説明がありました。生徒からは、高校でトマト栽培に取り組んでいることもあり、病虫害防除について質問が出されました。

2カ所目は大崎市田尻地区で新規就農し、地域で初めて宮城型簡易養液栽培を導入し、水稲育苗後のパイプハウスでトマトの養液土耕栽培に取り組んでいる佐藤陽輝氏を訪問しました。佐藤陽輝氏からは、新規就農までの経過や現在の経営について説明があり、新規就農して2年が経過して病虫害防除などで苦労することもあるが、全て自分の責任で行うのでやりがいがある、といった話がされました。生徒から、使用している培土について質問があり、培土を実際に手に取って感触を確かめたりしました。

普及センターでは今後も管内の農業高校と連携を図り、農業の担い手確保に向けた取組を行ってまいります。

○法人設立を目指して集落説明会を開催

令和3年9月1日
栗原農業改良普及センター



8月24日に、栗原市の福岡老人憩いの家で、福岡営農組合の法人化に向けた集落説明会が開催されました。

福岡営農組合は、平成19年に設立され、水稻39ha、大豆22haを栽培する集落営農組合で、令和2年6月に法人設立準備委員会を立ち上げ、関係機関や農業経営相談所の支援を受けながら法人化へ向けた話し合いを重ねてきました。当日は、法人設立を提案するに至った経過や事業目論見書を準備委員会の委員長が地区の農業者に説明し、法人への参加を呼びかけました。

法人化は、平成31年1月に営農組合が策定した集落の将来ビジョン「こんな『ふくおか』を目指して」の実現を図るもので、全員参加による農事組合法人の設立を目指しています。新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行われた説明会には、21名（営農組合の構成員51戸）の農業者が参加し、事業内容について熱心な質疑が交わされました。今後は発起人が個別に訪問して設立同意書を取りまとめ、設立総会の開催や法人設立の手続きが進められる予定です。

普及センターでは、関係機関と連携して、法人設立と経営の早期安定を支援していきます。

○登米市農業士会「経営向上研修会」を開催しました

令和3年9月27日

登米農業改良普及センター



登米市農業士会は、9月10日に、お互いの農業経営を事例視察し、自身の経営発展や地域農業を考える経営向上研修会を開催しました。また、本研修会には4日クラブ員や農大生を招き、意見交換も実施しました。

視察では、3年前に繁殖牛経営を目指して新規参入し、増頭を図ってきた富栄隆氏と、米の減農薬・減化学肥料栽培や、野菜の無農薬無化学肥料栽培などに取り組んでいる青年農業士の菅原達徳氏のほ場を見学しました。

富栄氏からは、現在に至るまでの経過や就農時に苦労した点などについて、菅原氏からは、防除対策や消費者ニーズ、販売先の動向等についてお話を頂きました。

視察を終えての総合討議では、2件の視察事例を踏まえ、農業士の視点から農業経営や後継者育成、地域振興等に係る意見交換を行いました。また、農大生に対しては、将来の目標をしっかりと持つことや社会人となるための心構え、自身の経験を踏まえた助言などがありました。

○有賀営農組合 法人化に向けて一歩踏み出す 令和3年9月30日 栗原農業改良普及センター



法人化を目指す栗原市若柳の集落営農組織「有賀営農組合」の役員を対象とした第2回法人化勉強会を、9月17日・18日に開催し、8名が参加しました。

7月30日・31日に行った「法人化による影響と法人の種類について」の勉強会に引き続き2回目の開催で、今回も専門家に助言をいただきました。

1日目は、講師の中村崇弁護士から、「法人に関わる者それぞれの役割と責任範囲について」と題し、集落全員参加をめぐる、地権者・出資者・法人役員それぞれの権利と役割・義務・責任について講義をいただきました。

2日目は、普及センターから、これまで行ってきた勉強会で役員から出された疑問点や不安な部分に対し、その解決策案を法人のパターン別に一覧表にまとめ、説明しました。また、宮村アドバイザーから、この集落を10年後も20年後も守るには、現状維持では守り切れないことを整理していただいたところ、前を向いて一歩踏み出すことが重要だということが認識されました。

まずは転作大豆を経営の中心に法人化し、組合員のライフステージに合わせてバージョンアップしていくことを目指し、早速、代表する役員を中心にシミュレーションを作成していくことにしました。

普及センターではシミュレーションの作成を支援しつつ、平行して他の役員の法人化意向把握、経営面での不安解消に向けた専門家派遣等、今後も支援を継続していきます。

③先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援

○赤色LED照射で9月出しトルコギキョウの開花を抑制

令和3年9月21日

仙台農業改良普及センター



9月9日に、大衡村でJA新みやぎあさひな花き部会トルコギキョウ現地検討会を開催しました。

秋出しのトルコギキョウにおいて、赤色LEDの終夜照射が開花抑制と品質向上に効果があることが、試験研究により明らかになっています。しかし、その効果は品種によって異なることから、普及センターでは、効果が期待される中晩生品種を用いて大衡村に実証ほを設置しました。

現地検討会では、普及センターから赤色LEDの効果の説明し、実証ほの生育開花状況を確認してもらいました。今回実証ほを設置した生産者からは、「切り花長が長くなることも良い点ではあるが、電照を組み合わせることで収穫期が分散され、出荷労力が軽減できることが良かった。経費負担も少ないことから、是非赤色LEDを取り入れたい」との評価をいただきました。

品質(切り花長)向上を主な目的として実証ほを設置しましたが、一斉開花で出荷調整に追われている生産者にとっては、無電照と赤色LEDを組み合わせることで開花期が分散できることも大きなメリットであることが判明し、有益な検討会になりました。

○グロワー技術交流会(パプリカ編)に参加しました

令和3年9月27日

石巻農業改良普及センター



宮城県では、園芸作物の栽培管理者(グロワー)が情報等を共有し、技術を研さんする場として「みやぎ環境制御技術交流ネットワーク」を設置しています。

9月15日にパプリカの生産者を対象者に、技術交流会が開催されました。県内の大規模施設栽培での栽培管理者同士で、日々の課題や技術向上のノウハウを共有しました。

石巻管内からは株式会社デ・リーフデ北上、株式会社デ・リーフデ大川が参加しました。デ・リーフデ北上では今作は大玉傾向にありましたが、さらに光合成の効率を上げたいと考えていることや、IPM技術としてテントウムシを活用したアブラムシ防除に取り組みたい等と話題提供し、他法人と積極的に意見交換を行っていました。

普及センターでは、今後も定期巡回指導等を通して、パプリカの収量および品質の向上を支援していきます。

④園芸産地の育成・強化支援

○「美里町北浦梨フェア2021」開催中

令和3年9月1日

美里農業改良普及センター



今年も「美里町北浦梨フェア」が8月28日から開催されています。

美里町内18店舗で北浦梨を販売するほか、スタンプを3つ集めて応募すると、抽選で美里町の特産品が当たるスタンプラリーが行われています。秋の訪れを感じる味わいを、ぜひお楽しみください。

なお、今年は春季の凍霜害により、例年より果実の収穫量が少なくなる見込みです。そのため、各販売店では、収穫した果実がなくなり次第閉店となりますので、ご了承ください。

○JA新みやぎあさひなりんご部会第2回現地検討会が開催されました

令和3年9月2日

仙台農業改良普及センター



JA新みやぎあさひなりんご部会の今年2回目となる現地検討会が8月24日に開催され、部会員5名が参加しました。

早生種の収穫がまもなく始まることから、各園地を巡回し、4月の低温による凍霜害の影響が最終的にどの程度になるか、収穫のタイミングがいつになるのかなどを確認し合いました。凍霜害の影響により、着果量不足のほかにさび果や乱形果も多く発生し、出荷量としては例年の7割から5割程度になるものと見込んでおり、販売方法について一工夫が必要との認識でした。収穫については、着色も進んでおり、収穫適期を迎えていることが確認されました。一方で、一部の園地で病害虫の発生が見られたことから、中生種や晩生種に対する最終防除について指導しました。さらに、日焼け果対策技術や果樹共済・収入保険制度に関する情報提供も行いました。

参加者同士で各圃地の状況を確認しながら意見交換が行われ、凍霜害の影響による減収に落胆する声も聞かれましたが「美味しいりんごを待ち望んでいる消費者に届ける」との思いを新たに、これからの収穫、栽培管理に奮起する姿勢が伺われました。

普及センターでは今後も情報提供や技術指導を行い、美味しいりんごの安定生産と災害に強い経営を支援していきます。

○抑制胡瓜現地検討会が開催されました 令和3年9月2日 巨理農業改良普及センター



8月26日にJ A名取岩沼ハウスきゅうり部会の抑制栽培の現地検討会が行われました。現地検討会には、7名の部会員のほか、J A名取岩沼の担当者、種苗会社、普及センター等が参加し、生産者6名のほ場を巡回して、生育状況等や今後の管理について検討を行いました。

定植は7月20日～28日の間に実施され、現在は収穫が始まっています。定植期の高温やお盆の曇天・低温により樹勢の弱いほ場もありましたが、生育は概ね順調でした。今作から導入された品種もあり、生産者は盛んに意見交換をしていました。

普及センターからは、きゅうりで使用可能な農薬の一覧を配布し、殺菌剤ごとの耐性菌発生リスクについて説明しました。

普及センターでは引き続き、巡回等を通して、きゅうりの栽培技術支援を行っていきます。

○ばれいしょ生産拡大推進研修会を開催しました 令和3年9月8日 石巻農業改良普及センター



8月25日に、石巻合同庁舎において、令和3年度ばれいしょ生産拡大推進研修会を開催しました。

今年4月に作成された「みやぎ園芸特産振興戦略

プラン」では、今後主食用米の需要減少が見込まれることから、水田等における収益性の高い園芸作物の生産を推進することとしています。特に、ばれいしょは、園芸作物の中でも機械化体系による管理作業が可能で、契約栽培により販売単価が安定していることから、今後の生産拡大を図るため、石巻管内の農業者及び関係機関向けの研修会を開催しました。

研修では、カルビーポテト(株)から加工用ばれいしょの栽培全般について、県からばれいしょ栽培の流れとばれいしょの経営データについて説明がありました。生産者や、関係機関等約30名ほどの参加があり、栽培指導から販売を手がけるカルビーポテト(株)に対して、生産者から適する栽培環境について多くの質問が寄せられました。

当管内でも24haと大規模でばれいしょ栽培に取り組む法人があり、約3トン/10aの収量も上げており、更なる取組拡大が期待されます。普及センターでは今後、露地野菜の園芸振興に向けて、支援を行っていきます。

○いちごの花芽検鏡を行っています！ 令和3年9月13日 巨理農業改良普及センター



8月23日から9月17日まで毎日、J Aみやぎ巨理の職員と一緒に、いちご生産者の方を対象にして、いちごの花芽検鏡を行っています。

いちごの花芽検鏡は、実体顕微鏡を使用して、定植前の苗の葉を一枚ずつめくって剥いていきます。これで花が出てくる出蕾までの葉の数と、花芽ができているかを確認することで、適正な定植時期や出蕾、開花の時期を予想することができます。花芽分化を確認した後に定植することで、年内の収量が安定するため、花芽検鏡の結果は重要となっています。

今年の定植は、早い生産者で8月20日から始まり、9月中旬頃まで定植作業が続く予定で、出荷開始は10月中旬以降の見込みとなっています。

普及センターでは、いちごの安定生産に向けて、今後も栽培支援を行っていきます。

**○JA みやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催
されました**
令和3年9月14日
登米農業改良普及センター



登米地域は県内一のキャベツ産地で、JAみやぎ登米キャベツ部会では、柔らかく甘みのある品種を中心に、キャベツの原産地にちなんで「地中海キャベツ」の名称で出荷を行っています。

9月7日、部会員6名が参加し、登米市南方町のほ場で現地検討会が開催されました。

検討会では、普及センターからは、今後の気象とほ場の排水対策、病害虫防除について説明しました。また、現地検討の会場となった生産者からは、栽培上の工夫や連作するうえでの対策について説明があり、部会員同士栽培の工夫や連作障害対策等について活発に意見交換が行われました。

部会では今後も、良質で食味の良いJAみやぎ登米のブランド「地中海キャベツ」の安定出荷に向けた活動を継続していく予定です。

**○令和3年度ばれいしょ生産拡大推進研修会が開催
されました**
令和3年9月21日
大崎農業改良普及センター



9月7日、大崎合同庁舎において、令和3年度ばれいしょ生産拡大推進研修会が開催されました。本研修会は「みやぎ園芸特産振興プラン」の重点推進品目である「ばれいしょ」について、管内での生産拡大を図ることを目的に開催され、カルビーポテト(株)を始め、計27名の生産者と農協、市、県関係者が参加し、登米会場からもリモートでの参加がありました。

カルビーポテト(株)からは、宮城県におけるばれいしょ栽培の強みや栽培契約の流れ、栽培に必要なほ場・設備等の説明がありました。また、宮城県の園芸推進課からは、栽培のメリットや活用可能な交付金・補助金等が紹介されました。

ばれいしょは農業経営を安定化させる露地園芸品目の一つとして位置づけられており、面積当たりの

労働時間が短く、生産性が高い特徴があります。また、カルビーポテト(株)との契約栽培により、販路と単価が安定していることも魅力です。

普及センターでは、大崎地域の園芸振興に向け、各関係機関と協力し、露地園芸品目の生産拡大を支援していきます。

**○登米産いちごの早期安定出荷に向けて花芽の
検鏡を行いました**
令和3年9月22日
登米農業改良普及センター



登米地域のいちごでは、「もういっこ」や「とちおとめ」などの品種を中心に、ビニールハウス等の施設で冬から春にかけて出荷される促成栽培が行われています。

促成栽培では、通常花が咲かない11月頃から花を咲かせるため、光や温度、肥料成分等をコントロールして開花を促します。この技術の重要なポイントは、定植前の苗に将来の花となる「花芽」がしっかりとできていることです。花芽ができていない苗を定植してしまうと開花が遅れてしまうため、定植する苗の一部をサンプルとして選び、花芽の出来具合を確認する検鏡(けんきょう)と呼ばれる調査を行います。いちごの花芽は非常に小さく、肉眼では見えないため、実体顕微鏡を用いて花芽の状態を確認し、花芽ができていない苗をほ場に定植します。

登米農業改良普及センターでは、8月下旬から9月中旬にかけて、JAみやぎ登米の担当職員と共に、管内生産者の苗の検鏡を実施しました。今年の夏は高温時期や曇天が続く時期があるなど、いちごの苗にとって厳しい天候となりましたが、生産者の丁寧な管理により、充実した苗が確保できていました。今期のおいしい登米産いちごの出荷が期待されます。

○秋まき直播たまねぎの栽培実証が行われました
令和3年9月22日
亘理農業改良普及センター



山元町の株式会社やまもとファームみらい野では、大規模に露地・施設野菜を栽培しています。特にたまねぎは15ha以上栽培しており、主要品目になっています。

現在たまねぎ栽培は、ほとんどが移植栽培で行われており、育苗期間が長く、育苗本数も24,000本/10a程度と多いため、多くの育苗時間と資材費がかかることが課題となっています。この課題を解決するため、やまもとファームみらい野では、昨年度から試験的にたまねぎの直播栽培に取り組んでいます。

9月14日に畝立て、直下施肥、溝底播種を同時にできる作業機を農研機構から借り受けて、播種作業が行われました。作業は、一畝当たり（長さ100m）10分前後で進み、スムーズに作業ができていました。今回播種したたまねぎは、来年の6月頃に収穫される予定です。

普及センターでは、関係機関と連携し、たまねぎの直播栽培技術の確立に向けて支援を行って参ります。

○巨理町逢隈の抑制トマト現地検討会が行われました！

令和3年9月27日

巨理農業改良普及センター



9月17日に、巨理町逢隈で抑制トマトの現地検討会が行われました。JAみやぎ巨理の担当者と一緒に、3軒のトマト生産者と現地ほ場の巡回を行い、生育状況や今後の管理について確認しました。

抑制栽培のトマトは7月下旬に定植が行われ、8月中旬と9月上旬の低温の影響で、生育はやや遅れており、出荷は10月上旬の見込みとなっています。今後の管理として、樹勢を維持していくことが重要となるため、追肥と灌水をしっかりと行うことを呼びかけました。また、ウイルス病やアザミウマ類の防除について、情報提供を行いました。

今後も、普及センターでは、関係機関と連携して、トマト生産者の栽培支援を行っていきます。

○巨理地域にて「シャインマスカット販売会」を開催しました！

令和3年9月27日

巨理農業改良普及センター



巨理農業改良普及センターでは、シャインマスカット栽培技術の品質向上と省力化及び産地としてのイメージ定着を目的に、プロジェクト活動に取り組んでいます。

9月19日、巨理町内にある直売所「鳥の海ふれあい市場」を会場にして、巨理地域（巨理町、山元町）のシャインマスカット生産者（4名）や、商品販売者（1名）による合同販売会を実施し、産地のPRを行いました。

合同販売会は、昨年に引き続き2回目の開催になります。今年度は、役場や商工会等の関係機関と連携し、シャインマスカットを使った商品開発支援や生産者・商品開発者が利用可能な共通マークを作成し、産地のPR支援などを行っています。当日は、新鮮なシャインマスカットや新商品の購入を目的に、たくさんのお客様が直売所を訪れました。

普及センターでは、今後も技術支援や産地のPR等により、当地域のシャインマスカットの普及拡大を支援していきます。

○若松の初出荷に向けて順調に生育中！

令和3年9月30日

気仙沼農業改良普及センター



9月1日、南三陸町でクロマツを栽培する（株）南三陸 Pine Pro 主催の現地検討会が開催され、（株）なにかわ花いちばと普及センターが出席して、生育状況の確認を行いました。

まず、初めて若松の収穫を予定している栽培4年目のほ場を巡回し、出荷の可否について検討しました。市場担当者から「品質について問題ない。初めての栽培ながら良く仕上がってきている」と及第点をいただき、順調な生育を確認しました。

続いて、普及センターからは各ほ場の生育調査結果と土壌分析結果等を提供し、ほ場を巡回して土壌と生育状況を比較しながら、栽培に適する土壌条件や肥培管理等について検討しました。一部の排水が良くないほ場では、湿害による生育不良が見られて

おり、湿害対策の重要性を確認するとともに、対策の実施について検討しました。

栽培4年目を迎え、様々な課題も見えてきていますが、初出荷に向けて期待の高まる検討会となりました。12月の「松市」に向けて、いよいよ10月下旬から収穫が始まります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆種子生産ほ場の第1期ほ場審査を行いました

令和3年9月6日

巨理農業改良普及センター



8月25日に、大豆特定種子生産ほ場第1期ほ場審査（開花期）を実施しました。

巨理管内では、名取市の1法人で、ミヤギシロメの種子を9haで生産しています。県は「主要農作物種子条例」に基づき、「ほ場審査」と「生産物審査」を行っています。

種子生産ほ場から収穫された種子は県内の農家に供給され、翌年の大豆生産に使われるため、大豆種子の基準は、種子伝染性の病虫害種子を含まないこと、発芽率80%以上などと厳しく定められています。今回の審査では、生育良好で、かつ、適切に管理されており、全ほ場合格となりました。

普及センターでは、引き続き第2期「ほ場審査」（成熟期）及び「生産物審査」を実施し、優良種子の安定供給が図られるよう支援してまいります。

○鳴瀬地区水稲乾田直播・大豆現地検討会が開催されました

令和3年9月6日

石巻農業改良普及センター



8月31日、東松島市鳴瀬地区で水稲乾田直播と大豆の現地検討会が開催され、生産者やJA担当者、資

材メーカー担当者の合わせて約20名が参加しました。

普及センターから、玄米品質維持のための適期刈取や、大豆の外観品質維持のための紫斑病の適期防除について説明し、メーカーからは追肥作業を省略できる大豆用一発肥料、難防除雑草に効果がある除草剤について説明がありました。生産者は熱心に生育状況を確認し、今後の管理や来年産に向けて意見交換が活発に行われました。

普及センターでは今後も、水稻や大豆の安定生産・品質向上を支援していきます。

○「だて正夢」及び「金のいぶき」収穫前研修会を開催しました

令和3年9月9日

大崎農業改良普及センター



9月3日に、大崎市三本木で、宮城県米づくり推進大崎地方本部主催の「だて正夢」及び「金のいぶき」収穫前研修会を開催しました。

研修会には生産者や関係機関など16名が参加し、普及センターより展示ほの生育概況や収穫時の留意点について、また、北部地方振興事務所農業振興部より県内の生産状況や生産支援事業について、説明を行いました。参加者からは「だて正夢が他のブランド米に負けないように広く宣伝を続けてほしい」「金のいぶきの生産支援事業を継続してほしい」との意見がありました。

「だて正夢」と「金のいぶき」の栽培面積は増加していますが、特に「金のいぶき」は実需者からの需要が多く、さらなる生産拡大が求められています。

普及センターでは「だて正夢」及び「金のいぶき」の安定生産に向けて引き続き技術指導を行ってまいります。

○農業研究組織「若牛会」の取組を支援しています

令和3年9月17日

大崎農業改良普及センター



大崎市の岩出山地域と鳴子温泉地域の肉用牛繁殖農家や一貫経営農家で組織する若牛会では、和牛の飼養管理技術の向上に向けた活動を実施しています。

9月14日の子牛市場では、会員宅で研修中の宮城県農業大学の学生も参加し、会員6名が出荷した子牛9頭について、体側（体高、胸囲、腹囲）と出荷体重、市場販売価格のデータを収集しました。普及センターでは、収集したデータを基に、子牛ごとの発育曲線等との比較などの出荷成績表を作成し、提供しています。

普及センターでは、今後も若生会の活動を始め、技術向上や経営改善に向けた取組を支援していきます。

○適期収穫に向けた「だて正夢」地域栽培塾を開催しました

令和3年9月30日

大河原農業改良普及センター



稲穂が黄金色に色づき始めた9月2日に「だて正夢」の適期収穫に向けて地域栽培塾を開催しました。

「だて正夢」は、本県のブランド米を牽引する低アミロース品種で、一般の品種に比べてもちもちした食感が特徴です。収穫時期は、本県の主力品種の「ひとめぼれ」よりもやや遅く、収穫適期も短いことから、刈取作業は注意して行う必要があります。

地域栽培塾では、角田市と蔵王町の2か所の調査ほ場で、「適期収穫」及び「調製・出荷」について生産者へ情報提供し、意見交換しました。特に、今年は8月中旬に低温や日照不足が続いて天候を心配する声が聞かれましたが、登熟は概ね順調に進んでいることから、出穂後の積算気温や籾の熟色により収穫時期を見定め、適期に収穫するよう周知しました。

今回の研修会で、生産者の収穫作業に対する意気込みが感じられましたので、全国の皆様にまもなく仙南の美味しい「だて正夢」がお届けできる見込です。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○第3回宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会を開催しました

令和3年9月9日

仙沼農業改良普及センター



管内の生育調査ほや普及展示ほ（「金のいぶき」・「だて正夢」の移植栽培、「ひとめぼれ」の湛水直は栽培）を巡回し、現在の生育状況を確認するとともに、刈取適期を確認しました。

7月まで高温傾向で推移したため、水稻の出穂は過去最も早く、本吉の「ひとめぼれ」生育調査ほでは7月29日（前年8月5日）でした。一方、お盆頃の長雨と低温により、刈取適期は出穂期ほど早まらず、同ほ場では9月13日頃と見込まれます。管内全体では、8月2日出穂の場合、刈取適期は9月13日～23日頃と見込まれます。

今後は刈取時期が水稻の品質を大きく左右します。特に刈り遅れは食味・品質が確実に低下するため、品種に応じて出穂後の積算気温や籾の熟色を確認しながら、適期刈取を行うよう支援していきます。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○亘理地域にて加工勉強会を開催しました

令和3年9月7日

亘理農業改良普及センター



亘理農業改良普及センターでは、今年度、亘理町の特産品であるりんごとシャインマスカットを使った商品開発を、町や商工会等の関係機関と連携し進めています。

8月31日、農家レストラン旬菜館（亘理町）にて、商品開発意向のあった生産者とともに、加工の勉強

会を開催しました

この勉強会では、加工原料メーカーの(株)林原の村上氏を講師に招き、加工製造・販売時の課題(品質向上や販売時の品質保持,作業性の改善等)への対応策等について学びました。質問や意見交換も活発に行われ、生産者からは、今回学んだ内容をすぐ試してみたいとの積極的な感想もあり、今後の新商品開発につながる勉強会となりました。

普及センターでは、今後も地域の特産品を活用した地域農業の発展を支援していきます。

○ブロッコリー栽培講習会を開催しました 令和3年9月13日 仙台農業改良普及センター



8月19日、仙台市太白区のJA仙台秋保店において、農事組合法人あきう生産組合の構成員等を対象にブロッコリー栽培講習会を開催しました。

同組合では、現在、水稻・大豆・そばを主体に経営していますが、今後、従業員の雇用に向けて新規園芸品目の導入を検討しています。当センターからは、その有望品目として秋冬穫りブロッコリーについて提案していたことから、今回の講習会を開催しました。

参加者の多くは、自家用として苗を購入し、栽培した経験はあるものの、ブロッコリーの出荷経験はほとんどなかったため、生育の特徴や肥培管理、病害虫防除等の基本的な技術について講習を行いました。

講習会終了後には試作用として、秋に収穫される露地栽培用と、冬に収穫されるハウス栽培用の2品種のブロッコリー苗を出席者等に配布しました。今後、収穫・出荷に向けてJA仙台と協力し、巡回による助言等を行うこととしています。

②大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援

○株式会社宮城リスタ大川で水稻刈り取りに向けた研修会を開催しました 令和3年9月17日 石巻農業改良普及センター



9月10日に、(株)宮城リスタ大川の社員研修会を開催しました。当普及センターでは、東日本大震災により被災した大川・北上地区の復旧農地を担う3法人の支援を目的としたプロジェクト活動「被災農地における土づくりの推進による生産性向上」を令和2年度から実施しています。本研修会は、その活動の一環として開催したものです。まもなく始まる水稻の刈取りへ向けて、刈り取り適期の予測やその判定方法などについて研修を行いました。

水稻の刈取適期とその見分け方について座学で研修を行ったのち現地へ移動し、ほ場の様子と成熟段階を照らし合わせて、ほ場ごとの刈取適期を確認しました。ほ場全体をよく観察し、黄化程度や出穂後の積算平均気温などの基準から、総合的に刈取適期の判断することを説明しました。また、刈取りが遅れてしまうと穂発芽粒や胴割粒が増加することから、刈取りが遅れないよう見極めて作業を行ってほしいと呼びかけました。社員の方々は、稲穂を手に登熟程度を確認していました。

当普及センターでは、引き続き、東日本大震災からの復興を担う法人の支援に取り組んでいきます。

○JA新みやぎ大郷カントリーエレベーターの落成式が行われました 令和3年9月21日 仙台農業改良普及センター



9月13日、JA新みやぎ大郷の穀類乾燥調製貯蔵施設(カントリーエレベーター)の落成式が開催されました。

このカントリーエレベーターは、令和元年10月の台風19号(令和元年東日本台風)で、吉田川の堤防決壊により、粕川穀物乾燥調製施設(ライスセンター)が甚大な被害を受けて使用不能になったことから、JA新みやぎ、大郷町等の関係機関が協議し、建設に至ったものです。

貯蔵能力2,000t、処理面積300haであり、丸形貯蔵ビン(330t×6基)、乾燥機(15t×2機)等を備えています。

同地区では、大区画ほ場整備事業が計画されており、このカントリーエレベーターが、農業法人や担い手農家への農地集積による経営の効率化・大規模化の促進と、地域農業の発展に寄与することが期待されます。

4. その他

①令和3年度第1回普及活動検討会について

○令和3年9月3日 巨理農業改良普及センター



8月27日に、第1回巨理地域農業普及活動検討会を開催しました。

この検討会は、関係機関(市町、農協)や商工団体、農業者などの外部評価委員に対して、今年度の活動計画やこれまでの取組状況等について説明し、計画の妥当性や活動手法などについての評価や課題解決に向けた助言を頂くため、毎年2回開催しています。今回は新型コロナの緊急事態宣言の発令を受け、当初予定していた現地視察を中止し、感染症対策を徹底しながら時間を短縮して実施しました。

検討会では、令和3年度普及指導計画の概要を説明し、重点的に支援している活動(プロジェクト課題)の前半の活動状況について報告しました。新規課題の「新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現」については、パワーポイントによるプレゼンテーションと産地表示の現物を使用しながら、これまでの取組状況や今後の計画などについて説明しました。

委員からは、巨理地域の特性と課題を的確に捉えた支援が行われており、農業者との連携も密に取られているといった評価をいただくとともに、活動の成果をより多くの農家に普及・浸透されることを期待するといった意見をいただきました。今後は、これらの意見を参考にしながら、今年度後半の支援活動に取り組んでまいります。

○令和3年9月16日 気仙沼農業改良普及センター



8月31日に、第1回普及活動検討会を開催しました。検討会には、管内の指導農業士やマスコミ関係者など委員7人に出席していただき、普及センターの活動等について検討しました。

当日は、初めに、平成30年から南三陸町志津川地区で取組が始まったクロマツのほ場を現地視察しました。クロマツはお正月飾り向けとして、今年度から本格的に出荷が始まります。現地ではクロマツの生育状況を見ていただきながら、普及センターの取組内容について説明しました。

その後、本年度の計画や活動状況等について説明して検討を行いました。今回、各委員からいただいた意見や評価を踏まえ、今後の活動に活かしてまいります。

○令和3年9月21日 大河原農業改良普及センター



大河原農業改良普及センターでは、普及指導の計画と活動実績を検討し、一層の活動推進に資するため、外部評価委員として普及活動検討委員を招いて普及活動検討会を開催しています。その第1回目の検討会を9月7日に開催しました。

前半は、蔵王町内のなし生産者で今年4月に後継者が就農した方の樹園地を視察し、今年の春に発生した凍霜害への対応状況と、後継者の就農に至る経緯などについて説明していただきました。後半は会場にて、仙南地域の園芸振興を目的とした3つのプロジェクト課題について、各課題リーダーから今年度前半の活動経過と今後の活動計画を報告しました。

普及活動検討委員の方々からは、「市町の職員からすると施策を進めるうえで普及センターの技術指導は大変心強い」、「新規で農業を始めようという方にはこのような栽培技術習得の支援が大事だ」といった評価を頂く一方で、「農業に限らずいろいろな分野で担い手が足りないので、様々な面から検討しなければならない」といった御意見も頂きました。

普及センターでは今回の普及活動検討会の結果を受けて、今年度後半の活動に反映させるとともに、将来に向けた地域農業の推進に向けて活動を展開していきます。

○令和3年9月27日 仙台農業改良普及センター



普及センターでは、普及指導活動の課題設定、普及指導計画及び活動評価等について意見を求めることを目的に、農業者、生活者、学識経験者、市町村及び農業団体の担当者等の代表者を構成員として、年2回「普及活動検討会」を開催しています。

9月2日、全農みやぎ園芸・生産振興部（パッケージセンター）及び仙台市中央卸売市場の会議室において、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、6名の検討委員出席のもと、令和3年度第1回普及活動検討会を開催しました。

はじめに、全農みやぎパッケージセンターにおいて、本年度から当普及センターで取組んでいるえだまめのプロジェクト課題関連で、「仙台えだまめ」のサプライチェーンの概要について、全農みやぎの担当者から説明を受けるとともに、各生産地で収穫・洗浄されたえだまめを選別する「形状・色彩選別機」の作業工程を見学しました。

その後、仙台市中央卸売市場に会場を移し、3つの新規課題を含む5つのプロジェクト課題について、4月以降の活動状況と対象の動き、今後の活動予定について検討委員に説明しました。

検討委員からは、「中山間地域の高収益作物や新規品目の技術支援、果樹の支援など広範囲で普及指導がなされている」と高評価をいただきました。その一方で、「課題をもう少し絞っては」との御意見もありました。

普及センターでは、今回の貴重な提言を今後の普及活動に活かし、生産者から頼られる普及活動を行っていきます。

○令和3年9月28日 石巻農業改良普及センター



石巻地域の普及指導計画プロジェクト課題等の効果的かつ効果的な推進を図るため、農業者や市、農協等の外部検討委員7名を招き、「令和3年度第1回石巻地域普及活動会」を9月2日に石巻合庁で開催しました。当初は、現地検討の予定でしたが、新型コロナウイルス緊急事態宣言発動に伴い、室内検討のみを行いました。

令和3年度のプロジェクト4課題（①石巻市大川・北上地区で復旧農地に堆肥を投入・水稻の収量を上げる取組、②東松島市大曲地区の大規模経営法人の組織力強化の取組、③県育成のいちご品種「にこにこベリー」の園芸法人での安定生産の取組、④アスパラ採りつきり栽培の導入定着への取組）について、半年間の活動状況と今後の活動計画を課題ごとにリーダーが説明しました。

委員の方々からは、地域内有機物の循環システムを進めて欲しい、100ha以上の大規模経営において、水稻直播栽培が労働力の分散につながるということが分かった、といった御意見をいただきました。

また、いちごの養液栽培では収量が増加した要因として、培地の定期的な交換や環境制御技術の定着があること、法人内でのしっかりした指示が効率的な作業につながること等、法人支援に向けた普及センターの支援のあり方や今後の普及活動の進め方に関する忌たんのない御意見をいただきました。

今回の検討会で各委員よりいただきました御意見を参考にし、今後の普及活動を計画的かつ効果的に展開していきます。

○令和3年9月29日 登米農業改良普及センター



8月30日、普及活動への外部評価のため、第1回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました。今回、2つの課題活動について説明し、7名の検討委員から意見をいただきました。現地の取組状況を伝えるため、各課題の支援対象者からもスライドを活用しながら、栽培状況等の現状報告を行いました。

最初に「きゅうり環境制御技術のスキルアップによる生産拡大」活動に対して、普及センターから取組状況を説明し、施設できゅうり栽培に取り組んでいる南方町の田口氏から、生育実績や環境制御技術の活用、今後の課題などについてお話をいただきました。

次に、加工業務用野菜関連の実践者として、米山町の株式会社櫻井農場の櫻井代表取締役から、遊休農地を団地化したキャベツやえだまめの取組についてお話をいただきました。

検討委員からは、環境制御技術の普及拡大に向けて、二酸化炭素施用等の効果と生産コストを把握した上での支援が重要との意見がありました。また、加工業務用野菜生産については、近年の食生活の変化からもニーズが高まっている分野であり、土地利用型高収益作物の生産拡大に向け積極的に取り組んで欲しいといった意見もいただきました。

普及センターでは、これらの意見を今後の活動に活かしてまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.176

発行日:2021年10月15日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp